ITU テレコムワールド 2019 ビジュアルレポート
―5G は光ファイバーの導入を牽引するか―

一般社団法人日本ITU協会　専務理事　田中（たなか）　和彦（かずひこ）

オープニングセレモニー

1. はじめに

2019年9月9日（月）から12日（木）までの4日間、ハンガリー（ブダペスト）のHungExpoで、ITUテレコムワールド2019が開催された。2015年に続き同国での2回目の開催で、参加者4,000名、参加国125か国、250名以上の講演者、300名以上のICTリーダーの参加となった。

2. オープニングセレモニー

ジャオITU事務総局長は本イベントの意義と開催国へ謝辞を述べ、国連事務総長からはビデオメッセージが寄せられた。ITUが連携を深めているWIPOの局長からも挨拶があった。

同国のクリエイターによる未来をイメージしたCGビデオ上映の後、次回開催予定国であるベトナムの情報通信大臣が登壇し、次回の開催を披露すると会場では軽い驚きの声が聞かれた。最終日に次回の開催国、開催地が発表されるのが通例だが、今回はオープニングセレモニーでの発表となった。ハンガリー首相の挨拶では、同国がITUの創立メンバーであること、例えば、付加価値税を従来の27%から5%に低減させて、インターネットの普及に力を入れていることなどが強調された。

3. VIPパビリオン見学

オープニングセレモニーの終了後に、ハンガリー首相、ジャオITU事務総局長、ITU幹部、各国大臣級閣僚による展示パビリオンの見学が行われた。

日本パビリオンに関しては、時間の関係で、別途、ジャオITU事務総局長が訪問され、関係者一同との記念写真の後、展示もご覧いただいた。加えて、3日目に改めて、ジャオITU事務総局長が、日本パビリオンを訪問された。

展示各社の展示内容を見学され、展示担当者と熱心にまた親しいやりとりが行われた。

4. ジャパンパネルランチ

2日目に、日本主催のジャパンパネルランチが開催された。これは、ランチを食べながら、各社のプレゼンテーションを聞いていただくイベントで、駐ハンガリー佐藤特命全権大使、ジャオITU事務総局長を来賓にお迎えし、また、ジョンソンITU事務総局次長、マニエウィッチITU-R局長にもご出席いただき開催された。

総務省土田専門職による開会挨拶の後、佐藤特命全権大使が挨拶された。

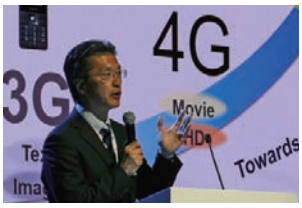
引き続き、ジャオITU事務総局長が登壇し、日本の長年にわたるITUでの国際標準化活動への寄与に対する感謝などを述べられ、その中で、日本のSMEの動向として、出席のSME社長を紹介し会場の拍手を受けた。

来賓の挨拶の後、日本ITU協会田中（筆者）が、各社のプレゼンテーションの概要を紹介し、以降の進行を務めた。

ZEUSは、同社のミャンマーにおけるIT人材への取組みを紹介した。ソフトバンクは、成層圏に飛行体を飛行させて携帯電話の基地局として運用する取組みを紹介した。多言語処理技術のWelltoolは、同社の技術と国連が掲げるSDGsへの貢献をアピールした。

日本電池再生は、同社の鉛充電池再生・復活技術と各

ZEUS 桂 代表取締役



ソフトバンク 上村 渉外本部
標準化推進部部長

Welltool 田中 代表取締役

日本電池再生 川邉 代表取締役

IIJ 佐々木MVNO事業部
兼 事業統括部 部長

NICT 門脇 理事

国での適用状況を紹介した。IIJは同社の日本におけるインターネットへの取組みと広範なMVNOサービスの提供などについて紹介した。NICTは、同機構の紹介と、研究成果例として、38マルチコア光ファイバーなど革新的・創造的な研究成果を紹介した。

ランチをとりながらのイベントだが、参加の皆様の関心は高く、食事の手を止めてプレゼンテーションに聞き入り、また、プレゼンテーションスライドを写真に収めるという光景が多く見られた。

イベントの終了時には、参加者が講演者のところにやってきて「もっと話を聞かせて欲しい」というやりとりが行われるなど、関心の高さを伺うことができた。

5. 閣僚級ラウンドテーブル

2日目には、閣僚級ラウンドテーブルにおいて下記の3テーマで、活発な議論が行われた。

①The role of government in 5G and high-capacity network deployment（5G及び大容量ネットワーク導入における政府の役割）

②What's happening with our data? Securing trust in digital public services（今、データに何が起きているのか？デジタル公共サービスでいかに信用を確保するか）

③Stimulating public-private collaboration on connectivity and adoption（接続性導入のための政府・民間協力をいかに活性化させるか）

What's happening with our data? Securing trust in digital public servicesでは、各国から、デジタルエコノミーの重要性、電子政府の導入計画などが積極的に紹介された。

一方、技術、法整備、人材の不足や接続性の不十分さなどの課題も示された。また、データの安全性と関連し、デジタルアイデンティティの重要性を指摘する意見もあった。

Stimulating public-private collaboration on connectivity and adoptionでは、いかに接続性の拡大を図るかという観点からの議論が行われた。

各国からは積極的なデジタル活用の計画がある一方で、機器やアンテナなどのコストが高いことがネックであるとの指摘が続いた。それに対してはユニバーサルファンドの活用やアンテナタワーの共用化、あるいは利益共用化などの方策が示された。

6. フォーラムセッション

フォーラムの各セッションでは、技術、応用、制度、課題解決など様々な切り口での議論が行われた。

Investing in the digital future：towards gigabit infrastructure and societyでは「ギガビット時代のインフラストラクチャーと社会に向けてどう投資を行うべきか」というテーマで議論が行われた。

What's happening with our data? Securing trust in digital public services ラウンドテーブルパネル

Stimulating public-private collaboration on connectivity and adoption ラウンドテーブルパネル

各国からはギガビット時代への期待やブロードバンド拡大計画が紹介されたが、一方、不確実性の高い現状において、政府、民間、いずれもが投資に対してどういう姿勢を取るべきかに悩んでいるとの指摘もあった。

最後に「ギガビットを実現する現実的な方法はFTTHと5Gと理解しているが、この場の議論はどちらを前提にしているのか?」と質問したところ、パネル各氏は大いに反応し、結局は「両方のバランス、両者は補完関係」との意見であった。

Accessibility matters：dismantling the barriers of disability with technologyでは、「技術によっていかに障害に伴う障壁を取り除くか」という議論が行われた。

各国、各地域、各社における障壁をなくす取組みの紹介、改善計画などが紹介された。

最後に「MIT Media Lab. のハー教授は、登山で足を失ったが状況別の義足の方が山に登りやすいと言っている。技術で障害は利点に変えられるのではないか?」と発言し、パネル各氏からは「正にそのとおりだ、そういう方向を目指したい」との発言があった。

7. パビリオン展示

広大な会場の半分がフォーラムの会場に、残りの半分が展示会場に使用された。

大中小規模なパビリオンに加え、今回は、極小とも言えるスタンドサイズの展示も行われていた。

各国の展示は、大きさも内容も様々で、各国のSMEが展示しているのが目立った。

中国は、例年に比べると小規模な印象だったが、それでも複数のパビリオンで展示していた。各国、企業以外に種々の団体の展示も見られた。

企業では、常連の企業に加え、今年は、自動運転、5Gの展示が目立った。

自動運転車は静態展示だったが、運転席に乗り込むことができた。5Gに関しては大きなトラックや、5Gで制御する多足ロボットのデモンストレーションなどが目立った。

8. 長年貢献感謝状・各国パビリオン優秀賞贈呈式

3日目には、各国・関係者の長年のITUテレコムワールドへの貢献に感謝状、また、各国パビリオンから選ばれた出展者に優秀賞の贈呈式が行われた。

長年の貢献に対して、各国の首脳に、また、50年近くもITU活動に携わって来たハンガリーの関係者に感謝状が贈呈された。

各国パビリオン優秀賞として、日本については、Welltoolが受賞し、一同との記念写真に加え、ジャオITU事務総局長との記念写真に収まった。

長年貢献感謝状、各国パビリオン優秀賞の受賞、誠におめでとうございます。

9. ITUテレコムワールド賞贈賞式

4日目には、ITUテレコムワールド賞贈賞式が行われた。この賞は、ICT分野での貢献、成果を上げている企業、政府を表彰するものである。

展示会場全景

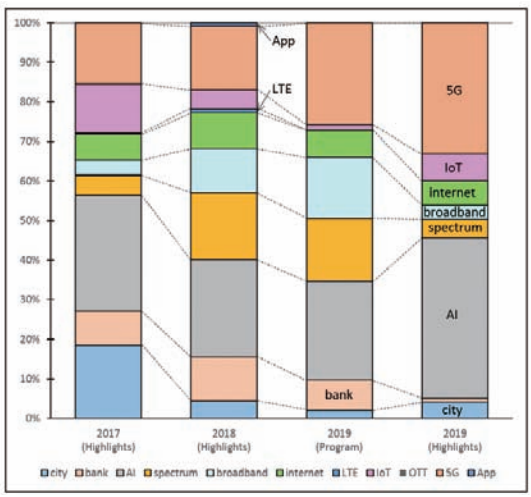
総務省土田専門職、ジャオITU事務総局長、Welltool 田中代表取締役

SMEに対しては、下記のカテゴリごとに、SME各社に賞が与えられた。

- ビジネスモデル（Best Business Model）
  Vokacom（ガーナ）：GPSによる住所管理システム
- ICT活用（Most innovative use of ICTs）
  Immersion4（スイス）：直浸液冷省エネ技術
- 社会貢献（Greatest social impact）
  UX Information Technologies（モザンビーク）：携帯電話によるジョブマッチングシステム
- 拡大・成長性（Most scalable solution）
  Prime Molecular Technologies Africa（南アフリカ）：ペーパーレス省資源貢献システム

住所が未整備である国におけるGPSによる「住所システム」やインターネットの利用を前提としない携帯電話サービスによるジョブマッチングサービスなど、発展途上国ならではのシステム、サービスが特徴的であると感じた。

SME最優秀賞は、スイスの特殊な液体による冷却システムによりデーターセンターの省エネ化に役立つ技術を提供するImmersion4が受賞した。



キーワードの比率、推移

10. まとめ

様々な切り口で、議論、展示が行われた本イベントの全体像を把握、俯瞰するのは難しいが、今回の事前のプログラム、事後のハイライトに出現したキーワードを過去のハイライトと並べて分析してみた。

特徴的なのは、5Gが経年的に比率が高まっており、これは、構想、議論の段階から実用化の段階に入り現実性が高まったためと思われる。AIは結果的に多く語られた。IoT、internet、broadband、spectrumは一定の比率で出現している。

印象に残ったのは、光ファイバーやその接続・収容用品の展示が行われていたことだ。これまで2012年以来、本イベントに参加してきたが、これらの展示を見かけたのは初めてという印象を持っている。

ブロードバンドの導入、デジタルエコノミーへの期待など、構想が語られており、ギガビットというキーワードも聞こえたが、内容を見ると、まだまだ、接続性＝ブロードバンドのカバレッジが不十分であるという悩み、また、速度も、ギガビット以前の段階であることが分かる。

FTTHに加え、5Gという選択肢が出現したが、5Gの基地局への回線として光ファイバーは必須であり、FTTHの導入に加えて、5Gの導入が光ファイバーの導入を進める契機になるのではないかと感じた。

この点で、光ファイバーの普及率が高く、その応用も進んでいる日本は各国の参考になり得るのはないかとの想いを改めて強くした。

11. 次回はベトナム（ハノイ）で

次回はITU Digital World 2020として、2020年9月6日（日）～9日（水）に、ベトナム（ハノイ）のベトナム国立会議場（Vietnam National Convention Center）で開催予定である。

経済発展が目覚ましく、また、ビジネス先としても注目されるベトナムでの開催となります。皆様、ぜひ、ご参加をご検討ください。よろしくお願いいたします。

ITUテレコムワールド2019に関しては、当協会HPでビジュアルレポートを公開しています。

写真など詳細をご覧いただけますので、ぜひ、ご活用ください。

<ITUテレコムワールド2019ビジュアルレポート>

https://www.ituaj.jp/00_sg/20190909_TW19/TW19.html